



担い手通信



JA bank Mic

Topic

今月の話題

農薬散布用ドローン 安定感優れ折り畳みも 世界最大メーカーDJIが実演会

世界最大のドローン（小型無人飛行機）メーカーのDJIは3月8日、東京都あきる野市で農薬散布用ドローン「AGRAS（アグラス）MG-1」の実演会を開きました。切り返し時の安定性や薬剤の飛散（ドリフト）を抑えた散布能力などを披露しました。ドローンの世界シェア7割を占めるDJIは、同機を機に、日本の農業市場での拡大を狙います。



実演会で飛散を抑え、安定した散布を披露するドローン（3月8日、東京都あきる野市で）

「MG-1」は、10リットルの薬剤タンクを搭載し、1回10分の飛行で1畝分の散布が

可能。四つのノズルで散布幅は最大6メートル。水洗い可能な防水防塵（ぼうじん）性もあ

ります。

実演会では、小学校跡地のグラウンドを圃場に見立てて水を散布。強風時や急な切り返し操作でも、すぐに機体を水平に戻す能力や、下方向にレーザーを照射して作物からの距離を一定に保つ機能などを披露し、参加者に売り込みました。価格は約180万円。作業時の機体幅は約150センチですが、8枚の羽と、本体アームを折り畳むことで、幅が78センチまでコンパクトにできます。「軽トラの荷台はもちろんトランクにも積める」（DJI）とアピールしました。

DJI初の農業用ドローンは中国、韓国でも販売しており、日本向けには農林水産航空協会の性能認定を受けました。DJIは4月末

までに、全国30カ所に、教習施設と整備事業所を兼ねた販売代理店を設けるといいます。

数字でみえる 三重県の農と食

資源保全活動を展開する農村集落の数

水路や農道などの生産資源の保全管理や生態系の保全、景観形成などの活動を展開する集落の数は平成27年度で916となっています（三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画平成27年度実施状況報告）。県は平成27年度、法制化された多面的機能支払交付金の普及啓発に取り組み、活動集落数は前年度より91増加しました。今後も、学校やNPOなどさまざまな主体の参画を促していくとしています。

916

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。



直管パイプで下部補強した柵

獣害防護柵の下部補強に直管パイプが有効

農 作物への鳥獣被害を防ぐため、三重県内ではイノシシやシカの侵入防止柵の設置が進められ

ています。近年はワイヤーメッシュ等の金属柵の設置が主流になっていますが、獣が柵の下部を押し上げる等して損傷させるため下部の補強が必要です。三重県農業研究所は、比較的安価に設置できる直管パイプによる下部補強の効果を検査し、有効であることを確認しました。

調査によって、ワイヤーメッシュの線径が同じ3.2mmでも直管パイプで補強した柵Bは、補強していない柵Aに比べて、下部損傷の箇所数が9分の1程度に抑えられていることが分かりました(表参照)。補強方法は直管パイプを、針金等で柵の支柱やワイヤーと複数箇所(結束し、柵の地際部(一番高い場所でも地面から15cm以内)に設置します)写真。

直管パイプによる下部補強の効果

柵のタイプ	調査距離(m)	損傷箇所数(100m当たり)		
		上部	下部	全体
柵A(3.2mm×下部補強無)	5,770	3.3	6.3	9.6
柵B(3.2mm×下部補強有)	5,390	2.4	0.7	3.1

お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎0598-42-6356

JAみえきた

非常用米缶詰 OEMで受注 炊飯不要、8年保存

JAみえきたは3月6日から、非常食として同JAが開発した、長期保存が可能な米「非常時持出米」について、全国のJAなどを対象にOEM(相手先ブランドによる生産)の受注を始める。非常時持出米は、丈夫なアルミ缶入りで8年間保存でき、缶を開けて湯か水を満し備え付けのスプーンで混ぜるだけで、湯は20分、水なら60分で食べられる。容器はコップや器として再利用できる。JAでは受注先に対して商品の売り方の提案などもしていく考え。

(2017/3/5 総合1面)

JA津安芸

ナバナ生産量拡大へ 勉強会に成果

JA津安芸は「三重なばなブランド化推進協議会」とともに、特産「三重なばな」生産者向けの勉強会を開き、栽培技術向上による生産量の拡大に取り組む。生産者の中には前年に比べ大幅に出荷量を増やす人もいるなど、着実に成果が出てきている。津市の美里地区と高野尾地区の生産者15戸が75㎡でナバナを栽培。出荷は11月から3月末までで、今年は1200ケース(1ケース4kg)の出荷量を見込む。

(2017/3/8 ワイド2東海)

JA三重中央

加工用栽培で所得増めぞす トマト・メロン

JA三重中央営農部農業支援室は2月上旬、加工用トマトとメロン栽培説明会をふれあいセンターで開いた。加工用トマトの説明会に22人、メロンの説明会には、19人が参加した。JA管内の農家が加工用トマトを栽培するのは2017年度で5年目、メロン栽培は3年目を迎える。加工用トマトは、2016年度は14人(前年度比5人増加)が栽培し、約16.7ト(同10.2ト増加)を収穫した。今後、定植の終わった春ごろに栽培研修会を行う予定だ。

(2017/2/24 ワイド2東海)

認定農業者の方や一定の条件を満たす農業者の方に



いまなら実質金利 **0%** 年

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- 乳牛その他の家畜購入資金



農業近代化資金

一定の要件を満たした認定農業者の方は、JAバンク利子補給制度等により、お借入から当初5年間の実質金利負担がゼロになります。

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/> 平成29年3月現在

《金利情報》平成29年3月21日現在

農業近代化資金

実質金利
年**0%~0.30%**
(固定金利)

※認定農業者の方は、市町や(公財)農林水産長期金融協会の利子補給等により、お借入が可能です。

スーパーS資金

年**1.5%**
(変動金利)